

在宅モニタリングのテレナーシング(遠隔看護)で病状の悪化が抑えられる 慢性閉塞性肺疾患(COPD)で在宅酸素療法(HOT)を受ける方へ

テレナーシングは、インターネットの普及により、近年急速に広がっている新たな看護の提供方法で、遠隔地の看護師（テレナース）がテレビ電話やインターネットなどの情報通信技術を用いて、慢性疾患で在宅療養する方へ看護を行う方法です。テレナーシングは、様々な理由で通院困難な方にも、テレナースが、在宅患者の心身状態を判断して、タイムリーな看護と保健相談を提供するものです。

慢性呼吸不全で在宅酸素療法(HOT)を受ける方は、呼吸器感染がきっかけになり病状変化が急激に進むことがあるため、毎日の心身の状態を自分で知ることが大切です。これまでは、定期的な診察や訪問看護の他には、専門職と会うことが少なく、体調が悪くなった場合、タイミングよく受診することが難しいことが度々ありました。この点に着目し、悪くなることを防ぐことができないかと考え、質問や血圧測定の結果を無線通信でタブレット端末から送信できるシステムを構築しました。これにより、在宅療養者の心身の毎日の観察が可能となり、テレナーシングが行えるようになりました。

この研究では、慢性閉塞性肺疾患(COPD)でHOTを受ける方に一日1回画面に表示される質問項目にタッチ回答していただきました。テレナースは即時に回答内容状況を判断し、症状が悪化している兆候が確認された場合、即座にテレビ電話や一般電話により対象者の様子を確認し、服薬の確認や症状緩和の方法など看護・保健相談などを行いました。

その結果、テレナーシングにより病状が急に悪くなることを32.9%減らすことができました。再入院は3.5%減らしました。

このように、日々の心身の状態を在宅モニタリングすることにより、病状悪化の兆候を速やかに発見して看護相談を開始することができ、病状悪化の進行が回避でき、病状の悪化が抑えられたと考えることができます。一人ひとりの在宅療養者へ、きめ細かい看護を行うために、テレナーシングの対象疾患を拡大し、様々な方へ支援できるようにしたいと考えています。テレナーシングが保険診療の対象となるよう、今後も研究活動を続けていきます。